

コンテナ苗生産現場の見学研修を行いました

研修は、秋田県山本郡三種町で苗木生産を行っている「田村山林緑化農園」を会場に当署職員 6 名及び山本地域振興局職員 5 名に加え、急遽、小島局長ならびに小林森林整備部長にもご参加をいただき 8 月 8 日（水曜日）に実施しました。

植え付けは健全な森林造成の第一歩となる作業ですのでコンテナ苗の構造や育苗管理について知識を深めることが重要です。

このことから、実際に苗木生産で「見る・聞く」ことによりコンテナ苗について理解を深め、地域の森林づくりにフィードバックすることを大目標とする研修を企画しました。企画するに当たり、コンテナ苗の普及・定着のためには民有林との連携が重要と考え、当地域の民有林行政機関である山本地域振興局農林部に所属する職員の方も参加する研修としました。

皆伐（かいばつ：一定のまとわりの林木を一度に全部伐採する方法）をした後、次の新たな森林づくりのため新植を行います。以前は、根がむき出しになっている「普通苗」を使用していましたが、近年は造林の作業コスト削減のためにコルク栓状に成型された「コンテナ苗」が主流となっています。

コンテナ苗は普通苗に比べ、

(ア)活着（かっちゃん）が良く、成長も普通苗と変わらない※活着とは発根・成長し根付くこと
(イ)コンテナ苗は冬期以外であれば基本的には時期を限定せず植え付けできる
(ウ)植え付け方法が簡単（専用器具で穴をあけるだけ）で労力も少なく済む
等の特徴があり、造林事業のコスト縮減につながります。

当署の畠山次長の開講挨拶に続き、田村代表取締役から、

- ・ 培地造り
- ・ 育苗管理
- ・ コンテナ容器の種類や構造によるメリット・デメリット
- ・ 苗木生産計画と需要バランス
- ・ 規格と品質管理の重要性
- ・ 植え付けの留意事項

等、圃場を移動しながら育苗から出荷まで一連の工程について説明を受けました。

また、コンテナ苗に知見のある小島局長からも説明があり、積極的なディスカッションも行われていました。

研修風景は以下のとおりです。

#1 畠山次長による開講挨拶



#2 培地造りの説明



#3 コンテナ容器について説明



#4 生分解シートを使った苗木紹介や苗木の規格と根部の構造について説明



#5 小島局長のコンテナ苗の扱いや植え方の注意
点の説明とディスカッション



#6 出荷場所における最終管理の説明



研修生からは、

- ・ 普通苗とコンテナ苗の育苗技術は全く違うということが印象に残った
- ・ コンテナ苗の根部の良し悪しの判断基準が理解できた
- ・ 「苗木造りはサイエンス」、「苗木造りは失敗から学ぶことも大きい、損害も大きい」との言葉が印象に残った

・活着・成長が良いとはいえ、扱い方や植え方に細心の注意が必要であることが理解できた
出荷規格が国と県で違うことを初めて知った

以上のほか、多くの感想・意見がありました。

今回の研修では、コンテナ苗の生産現場を直接見ることができ、参加職員にとって大変貴重な経験となったようです。また、県職員と国有林職員と一緒に OJT 研修を実施したことも意義深いものとなったように思います。

田村さんの案内・説明から質疑応答までの見学研修が終わった後、小島局長より今回の研修を機にコンテナ苗の普及に尽力願いますとの研修の振り返りをしていただき、研修は無事に終了しました。

なお、今後は 10 月頃を目途にコンテナ苗を植える予定の造林請負箇所です実地研修を行う予定としています。

小島局長より見学研修の振り返り



最後に、研修生の受け入れから説明までお世話して下さいました田村山林緑化農園の田村さんをはじめ農園職員の方に厚くお礼申し上げます。